

質と量はロータリーの車の両輪

パストガバナー 柏原 孫左衛門

私が昨年7月、ガバナーに就任してより1年の在任期間中に第355区では25の新クラブと二つの仮クラブができた。この数字から見て、私がロータリーにおいて質よりも量に重点を置いているかのように見られるおそれが多いのではないかと思われる。

しかし、私は最後のガバナー月報に次のような一文をのせている。それは“私はロータリーの発展には、質の向上と数の増加が車の両輪の如く必要であると信じております。其の質の向上のために、今年度は初めてのこころみとして、地区諮問委員会を設け、元ガバナーの各位に御就任を願ひ、少しでもロータリーに活動を活潑にし得たと存じます。次に数の増加に対しては、本地区に昨年度より設けられた拡大委員会を存続し、これが増加につくして頂いたのであります。

更にこの両方の活動を裏付けするために、今年度より初めての地区分区代理の制度を新設して、活潑な活動をして頂いた為に、各インターシテイフォーラムも適当に開催され、新クラブの増加も約25クラブを設立できた事は誠に喜ばしい限りであります。

この三つの制度が特に本地区における特色として実績を挙げ得た事は、全く望外の幸と申すべきでしょう”

つまり、ロータリーにおける量と質は車の両輪のごときもので、どちらに重く比重がかゝつても跛行的なものとなり、バランスが崩れることとなろうと考えたのである。日本のロータリーは他の国々に比して質において遜色ない。例えば出席率においても各地区の平均は90%以上をこしている。この一つを見てもロータリーに対する日本のロータリアンの熱意がうかがわれるというものである。

いまだ日本のロータリーはその量において決して多くない。例えばアメリカと日本を例にとつて見ると人口はアメリカが約1億7千万、日本は約9千2百

万、ロータリアン数はアメリカ約27万4千人、日本約1万3千名、人口1万当りのロータリアン数はアメリカ約16人、日本約1.4人、となつており、日本においての拡大はいまだ多くの余地を残しているのが数字的に見ても判るのである。勿論、地理的、経済的、その他諸条件は両国においてそれぞれ異つてはいようが、アメリカと日本の人口比が約2対1の割合に対してクラブ数比、ロータリアン数比の差が甚しいのである。ちなみに1959~60年度の国際ロータリーの名簿(Official Directory)を見るとアメリカのクラブ数は4,838 R. C.、日本は311 R. C. (本年5月末現在では371 R. C.)であり、先に述べた如く日本におけるクラブ及びロータリアンの拡大はいまだ大いに行われるべきだと思われる。

日本において一つ注目すべきは、クラブ及び会員の拡大によつて、質も向上しつつあるということである。これは新しいクラブを作るために、そのスポンサーとなつたクラブが自覚し、自らを向上せしめるよう努力する結果であろう。そこで私は量を止めて、質を上げるよう努力することはロータリーの本来の姿でなく、量をふやしつつ質をよくするのが本当ではないかと思つている。質にこだわつて量をチェックするようなことは現在はまだ考えなくてもよいのではないだろうか。

日本においてはその人口構造、経済力、その他の諸条件を考へて、500クラブぐらいまでは地域社会の要求や未設立都市の数から見て自然とふえて行くということがいえよう。このような状態を考えれば、質と量の問題はいずれをpushしてもpushられるものではなく、またその均衡が自然と保たれることとなつて行くであろう。

1960~61年国際ロータリーのマックロフリン会長はそのターゲットの中でExpress it, Expand itという言葉を使つているが、Express itは質を意味し、Expand itは量を示していると私は解釈している。この二つの言葉を見ても、ロータリーは質と量を両輪として発展して行くべきことが示唆されており、またこれによつて具現化されて行くのが理解されるのである。

ロータリーの友 1960年8月号